

令和元年度 事務事業評価報告書

令和2年8月

総務産業常任委員会

結婚活動支援事業事務事業評価報告書

総務産業常任委員会

評価対象事業名	結婚活動支援事業		
所管常任委員会	総務産業常任委員会	評価者	
基本政策	未来を拓く次世代が育まれるまち		
政策	結婚・妊娠・出産の希望の実現を支援する		
施策	男女の出会いの機会を創出します		

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき	(△) どちらともいえない	(×) 不良・すべきでない	
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	✓		
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	✓		
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	✓		
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか	✓		
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		✓	
		カ) 市民全員のためになっているか		✓	
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか			✓
		イ) 事業目標が達成できているか	✓		
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	✓		
		エ) 目標が低く設定されていないか		✓	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか			
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか			
効率性	4	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	✓		
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か		✓	
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか			
		エ) 事業に投入された人員は適切か	✓		
		オ) 事業の合理化は図られているか	✓		
		カ) 受益者負担等は適切か	✓		

総合評価	4	(事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由)
------	---	---------------------------

今後の方向性		拡充	評価指標	
※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		現状のまま継続すべき	5	極めて高い
	✓	見直しのうえ継続すべき	4	高い
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)	3	普通
			2	低い
		廃止	1	極めて低い

(事業概要)

令和元年度事業では、計2回の出会いのパーティを行う。

参加者は第15回(11月23日)が男性18名(市内13名)女性19名(同6名)でカップルが4組(22.2%)。

第16回(2月11日)が男性13名(市内13名)女性12名(同2名)でカップルが4組(33.3%)。

現在までに事業を経て結婚したのは3組で全て市外に在住。

令和元年度予算額は300,000円

(評価)

成果を「結婚」とみるか「出会い」とみるかで議論は分かれたが、討議の結果、委員会では成果を「出会い」とすることに決定し、それに基づき評価を行った。

概ね高評価であるが、有効性の前年度と比較し効果が上がっているかという点では疑問符がついた。

委員からは「出会い」の成果はあるものの、なかなか結婚に結びつかない現状に対する改善の必要性があるとの指摘も多かった。

事業の必要性はあるとの判断のもと、今後の方向性としては、「**見直しのうえ継続すべき**」とする。

(各委員の意見)

林委員長

- ・やはり結婚活動支援事業なので、成果は結婚だ。出会えて、それが成果というのであればもっと結婚の数は多いはず。
- ・効果が上がっていたら参加者はもっと多い。特に女性を集めるのに苦労されていると聞く。
- ・実際に参加した方に話を聞くと、西脇市内で行うと、知った人にも出会うし参加しづらい。そこで、もしカップルになって結婚すると、「そこで出会った」ということを言われるのが嫌という意識もあるようだ。だから3組の成婚カップルは全員市外に住んでいるのではないか。そのような感覚がある限り、西脇市でこの事業をやっても私は上手くいかないと思う。また知人の中には他地域での婚活イベントに参加して結婚し、西脇市内に住んでいる例もある。よって、廃止して、例えば県主催の同種イベントに参加費補助を出す方がいいと考える。

美土路副委員長

- ・成果は結婚と捉える。現在まで結婚が3組ということは成果が上がっていない。
- ・成婚が少ないのは社会構造がこのような状況で、晩婚化や未婚化が進むそういう時代背景にあると思う。長年やっているこの結婚活動支援事業のやり方自体は従来からずっと同じやり方でやっているのでもう既にやり方自体が陳腐化されているのかもしれないとも思う。手法自体を別のやり方に変更するなど、やり方を抜本的に変革する必要があるのでは

はないか。

吉井委員

- ・結婚は結果であって、とにかく出会いの場がつくれたということが、もうその時点で成果だ。
- ・30万円の事業費であるとか、参加者の負担金を考えると突拍子もない奇抜な企画を改めて考えるというようなことはなかなか難しいと思う。内容の多少の変更はあったとしても大きな変更というのはなかなか見込めないので、現状のまま粛々と続けてほしい。

村岡委員

- ・コンスタントに参加があることや、結婚にまで至っていないが、カップルまでは達しているというふうことで一定の成果はあると考える。
- ・この事業は必要である。ただ結婚に至っていないということで、内容をもう少し変えて、その後が続くような展開を考えるべき。その時のフィーリングでカップルになると思うので、その後にもう少しその人のことを知るような、理解できるような時間をつくるイベントをしたらどうか。

東野委員

- ・出会いの場づくりというのは今の社会情勢から考えて積極的にやるべき。ただ行政が主体的になってやるべきなのか、それとも民間で行うほうが成果は上がるのかである。
- ・最低限の予算でやられていると思う。継続するのに予算的にはそんなに無駄な予算ではない。
- ・社会情勢から考えた必要な事業だという認識だが、税金を投入し行政が主体的にやる事業なのだろうかとは現在でも少し疑問に思っている。
- ・様々な工夫をして、出会いそのものをたくさんつくっていく場の設定ということをしてもらいたい。出会いを求めている若者はたくさんいるが出会いがない。実際に行動に移せない若い人も多いので、そういう場をぜひつくってもらいたい。

岡崎委員

- ・イベントでカップルになれば成果と考える。
- ・晩婚化、未婚の方が多いということで、参加者の変化が見られないということがあったので、参加者を増やす工夫というのか、単身者の参加よりもグループ参加とかいろいろと企画を変更してみてはどうか。

中川委員

- ・行政の主催というのは安心感があって、市外からの女性も来やすいのがメリット。
- ・民間事業者に比べ、安価な参加費で開催しているというのも魅力の一つ。
- ・同じ目的で人が集まるのだから、最初のカップリングは好調。ただその後、結婚まで至っていないことに課題がある。イベント後のやり方に工夫が必要。